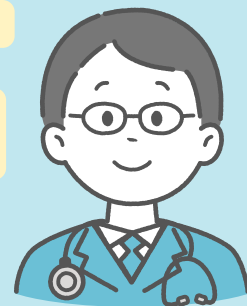


# ～バリウム検査を安全に受けていただくために～ 『バリウム検査を受けられない方』がいます

『受診者様に安全に検査を受けていただけるか』を判断するための安全基準が設けられています。

表Ⅰに該当する方は、バリウム検査を受けることができません。また、表Ⅱに該当する方は、原則検査不可ですが、医師(検診機関)の判断により受診できることがあります。

該当する自覚症状や既往歴がないかをご確認のうえ、お申込み・受診いただくようお願いいたします。



## 表Ⅰ 検査を受けられない方（禁忌要件）

### 消化管の閉塞・穿孔やその疑いがある方

バリウムが腸内に停滞し固まってしまうことで、重篤な合併症の恐れがあります。

### 消化管出血(吐血・血便)や強い腹部症状(腹痛など)がある方

バリウムが腸内に停滞し固まってしまうことで、重篤な合併症の恐れがあります。

### 過去の検診でアレルギー症状が出たことがある方

さらに重い症状が出る恐れがあります。

### 呼吸不全がある方(片肺切除術後や常時酸素吸入している方など)

撮影時の息止めが困難で検査が実施できなかったり、誤嚥の恐れがあります。

### 腎不全にて透析中の方、心不全で水分制限を受けている方

検査後に十分に水分摂取ができないためバリウムの排泄困難の恐れがあります。

### 急性心不全や重篤な不整脈などの心疾患がある方

検査時の負荷により再発作の恐れがあります。

### 全身状態が悪く検査に耐えられないと判断された方

安全に検査することができません。

### 妊娠中の方やその可能性がある方

胎児への安全性が確立されていません。

## 表Ⅱ 原則検査不可だが医師(検診機関)の判断で実施可能な場合がある方

- 腸閉塞や腸捻転、大腸憩室炎として治療を受けたことがある方
- 食道・胃の外科的手術もしくは内視鏡治療を受けて1年以内の方
- 医療機関で定期的に胃内視鏡検査を受けている／受ける予定がある方
- 大腸・小腸の外科的手術を受けて1年以内の方
- 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)で治療中の方
- 肝臓・膵臓・胆嚢・婦人科などの手術を受けて6か月以内の方
- 検査前72時間以内に排便が全くない方
- 過去の検診で検査が中止になるようなバリウム誤嚥を起こしたことがある方
- 寝返りや立つ時に日常的に介助が必要な方
- 水頭症で脳室-腹腔シャント(V-Pシャント)を施行している方
- ペースメーカーや植込み型除細動器(ICD)を装着している方
- 撮影機器の体重制限(※)を超えている方 ※検診機関によって異なる。

## 表Ⅲ その他注意事項

- 検査当日(検査前)に、飲食した場合やインスリン注射や血糖降下剤を服用した場合には、検査を受けられないことがあります。
- インスリンポンプ・持続グルコース測定器を装着していても、検査前後に自身で取り外し・装着ができれば検査可能です。
- 自力で体位変換できない・身体を支えることができないなどの場合は、転倒・転落の危険があるため、検査を中止することがあります。
- 検査前夜からの禁食・水分摂取、検査当日の内服などについては、検診機関の指示に従ってください。